

目次

1. 流鏑馬とは
2. 天長地久 の式
3. 騎射
4. 凱陣 の式
5. 装束について

流鏑馬をもっと楽しむ・知るために

1. 流鏑馬とは

流鏑馬の起源は古く、6世紀の半ば（大和時代）、第29代欽明天皇が国内外の戦乱を収めるため、九州・^{ぶぜん}豊前の国※1、宇佐において、^{じんぐうこうごう}神功皇后・^{おうじん}応神天皇を祀られ、「天下泰平・五穀豊穣」を祈願し、最も騎射に秀でた者に馬上より三個の的を射させた神事が始まりとされています。

流鏑馬の語源は「矢馳馬」つまり「ヤバサメ」が転じたもので「馬に乗って^{かぶらや}鏑矢を射流す」に由来すると言われています。

古来、^{つよゆみ}強弓※2を引き、^{とおや}遠矢にかけて敵を射倒すことが武者の誇りであり、疾走する馬上から弓を射る騎射は、最高の武道として、武将たるもの弓矢を持って馬に乗ることが正装でありました。やがて、流鏑馬・笠懸※3・犬追物※4は騎射の三つ物と言われるようになり、「天下泰平・五穀豊穣」を祈願して三つの的を射るのが流鏑馬です。

笠懸や犬追物は稽古として用いられ、流鏑馬は、神事として神社に奉納して^{しんりょ}神慮を慰めるという行事となり今日に至っています。

【用語解説】

※1 豊前の国：現在の大分県

※2 強弓：張りが強く、引くのに力を要する弓

※3 笠懸：疾走する馬上から的に鏑矢を放ち的を射る日本の伝統的な騎射の技術・稽古・儀式・様式のこと。流鏑馬と比較して、より実戦的で標的も多彩であるため技術的な難易度は高いが、格式としては流鏑馬より略式となり、余興的意味合いが強い。流鏑馬、犬追物と並んで騎射三物と称された。

※4 犬追物：鎌倉時代から始まったとされる日本の弓術の作法・鍛錬法。流鏑馬、笠懸と共に騎射三物の一つ。

流鏑馬をもっと楽しむ・知るために

2. 天長地久 の式

奉行※1は馬場中央の記録所付近において「五行の乗法」を行います。

奉行は乗馬したまま左回りに3回、右回りに2回馬を引き廻し、中央の位置で馬を止め、正面に目礼した後、鏑矢を弓につがえて天と地に対して満月に引きしほり国家の安寧と、五穀豊穣を祈念します。

その後、馬場本に向かって再び行進を開始します。

行進中は六足一鼓で太鼓を打ちます。(序の太鼓)

奉行は下馬し櫓に組んだ記録所に上ぼり、諸役※2が部署についていたのを確かめ「破の太鼓」を打ちます。

馬場本、馬場末の扇方は、扇で合図し準備が完了したことを知らせます。

これにより射手※3は順番に「素駆※4」を開始します。

【用語解説】

※1奉 行：それぞれの職により政務を担当し執行するもの。鎌倉幕府が幕府の職制として設置したことになります。または、主君などの命令を奉じて物事を執り行う人のこと。

※2諸 役：流鏑馬の際の手伝い役。装束に身を包み、矢を回収したり、旗を持って射手に順番を合図したりする役割を担う。

〔太鼓方〕 行軍や凱陣の式などで太鼓を叩いて合図を送る役。

〔旗 方〕 行軍の先頭で紅白の旗を立て、一同を率いる役。

〔扇 方〕 扇を翻して馬が走る合図を送る役。

〔的目付〕 的の的中判定と的の架け替えを行う役。

〔幣 方〕 矢が的的に的中したことを知らせる役。

〔矢 取〕 射手が放った矢を拾い上げ射手に渡す役。

※3射 手：馬に乗り弓を射る人。

※4素 駆：射手が弓を射ずに全速力で馬場を走り抜けること。

3. 騎 射

(1) 式の的

式の的は一尺八寸四方で、檜板を網代に組み、その上に白紙を貼り青黄赤白黒の五色（五穀を表す）で丸的を表し、的の後ろには四季の花が添えられます。

射手※1は式の的を3回ずつ奉射します。

重籠の弓※2に矢をつがえ一の的を射て、さらに腰に差した矢を抜き二の的を射ぬき、さらに三の的へと全速力で駆け抜け、それぞれ3回9本の矢を射ます。

通常はここまでが奉納神事となりこれ以後は競いの的となります。

【用語解説】

※1 射 手：馬に乗り弓を射る人。

※2 重籠の弓：武家の所有する正式な弓という意味。

(2) 競 射

競いの的には特に決められたものは無く、その流派によって変わります。

日本古式弓馬術協会では、一尺四方の檜の板を的にしており、的中するとパーンと乾いた音がします。的中し割れた的板は、御守札や宝くじ的中祈願として非常に人気があり持ちかえる方もいます。

もう一つは三寸の土器（直径約10cm）の中に五色の切り紙を入れたもので、この的に命中すると土器は碎け、中の五色紙が吹雪の如く飛び散ります。

競射が終わると奉行※1は記録所で「止めの太鼓」を打ち鳴らし、射手※2は乗馬のまま、諸役※3は手持具を持ち奉行のもとへ集まり、凱陣の式を行います。

流鏑馬をもっと楽しむ・知るために

3. 騎 射

【用語解説】

※1 奉 行：それぞれの職により政務を担当し執行するもの。鎌倉幕府が幕府の職制として設置したことになります。または、主君などの命令を奉じて物事を執り行う人のこと。

※2 射 手：馬に乗り弓を射る人。

※3 諸 役：流鏑馬の際の手伝い役。装束に身を包み、矢を回収したり、旗を持って射手に順番を合図したりする役割を担う。

〔太鼓方〕 行軍や凱陣の式などで太鼓を叩いて合図を送る役。

〔旗 方〕 行軍の先頭で紅白の旗を立て、一同を率いる役。

〔扇 方〕 扇を翻して馬が走る合図を送る役。

〔的目付〕 的の的中判定と的の架け替えを行う役。

〔幣 方〕 矢が的に的中したことを知らせる役。

〔矢 取〕 射手が放った矢を拾い上げ射手に渡す役。

4. 凱陣 の式

競射で最も多くの的中させた射手は、式の的を持ち、奉行の前に進み出て跪座きざ※1します。

奉行は扇を開き骨間こつけん※2から的を検分します。

扇を戻し、太刀の鯉口こいくちを切った時、太鼓は3つ打ちます。

奉行の「エイ・エイ・エイ」の声に続いて射手と諸役一同が「オー」と唱和します。

これを3回繰り返し勝闘かちどき※3を揚げます。(これは首実検の意を表わしている)

【用語解説】

※1 跪 座：右膝を付き左膝を立てる姿勢です。

※2 骨 間：扇の骨の間。

※3 勝 開：勝ったときに一斉に上げる喜びの声。

5. 装束について

奉 行：武田菱の定紋の綾檜笠に家紋を散らした 鎧直垂に太刀を帯び、24本

の征矢を差した 箼を負い、重籠の弓を持ち行縢を付け射沓を履く。

射 手：各々の家紋を散らした 鎧直垂に射小手をさし綾檜笠を戴き、右腰には

矢三本（他の一本は弓に添えて持つ）前差及び尻鞘をかけた太刀を帯、
行縢を付け射沓を履く。

諸役の的目付：鎧直垂に後三年形の鳥帽子をかぶり、前差、尻鞘をかけた太刀を帯び、白足袋に白草履を履く。

その他の諸役：鎧直垂に後三年形の鳥帽子を頭にし、前差を帯び、白足袋に白草履を履く。